

佐賀市教育委員会様

学校名 佐賀市立城西中学校

校長名 森山千代子 印

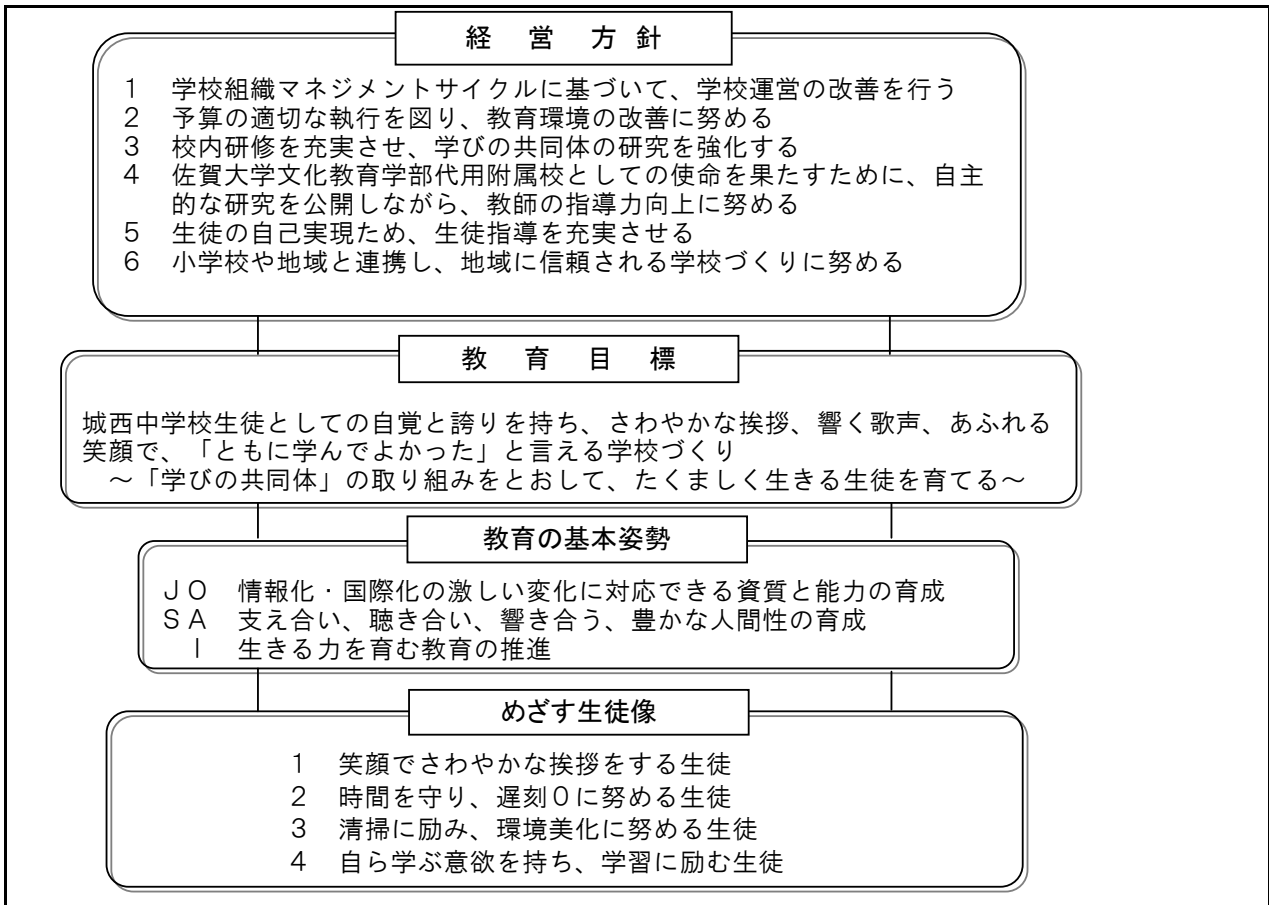
平成23年度教育課程について(届出)

このことについて、佐賀市立小・中学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり届け出します。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標



(2) 目標を達成するための基本方針

- ① 人権・同和教育の視点を本校教育の基盤に据え、「一人一人の生徒の人権を大切に、一人一人の学びを保障することを根本に考え、個と集団をつなぐ学びの共同体の取り組みをとおして、確かな学力の定着」を目指す。そのために、教師同士が互いの授業を参観し、生徒の学びを中心とした研究協議をおこない、授業力向上に努める。
- ② 生徒一人一人の個性や心身の発達段階、特性、適性等を十分考慮し、学校教育目標が達成できるような教育課程を編成し、目標達成に努める。教育活動全般をとおして、豊かな人間性を育成する。
- ③ 「和と対話」をモットーに高きに和し、「報告・連絡・相談」を徹底し、教職員が一体となって真に組織体として機能する学校づくりに努める。

2 本校の教育の特色

- ① 佐賀大学文化教育学部代用附属校という特色を生かした教育の推進
・文化教育学部から配置された主事の先生及び各教科担当の先生方の指導・助言を得ながら教育研究推進や教育活動の活性化に努める。
- ② 開校以来、代用附属校としての使命を果たすため、学校をあげて自主研究を行い、2年に一度研究公開を開催するようにしている。平成22年9月30日に第26回研究公開を実施した。
- ③ 平成23年度は「確かな学力の定着を図る教育の研究～学びの共同体をいかした実践を通して～」の研究主題を継続しながら年3回の公開校内研究会や学年単位の授業研究会をとおして、すべての教員が年1回の研究授業を行う。「生徒の学び」を中心として研究協議をする中で、主題に迫っていく。
- ④ 次代を担う教職員である佐賀大学生を教育実習生として受け入れ、よりよい授業づくりを目指して教師同士が学び合い、指導法の工夫・改善等、常に教職員の資質向上に努める。
- ⑤ 教育課程を工夫しながら、授業時数の確保に努める。
- ⑥ 行事の精選・効率化を図りながらも、感動あふれる行事になるように全職員で熱心に取り組む。

3 教育計画

(1) 本年度の教育の重点

2 本年度の教育の重点

- (1) 確かな学力の定着
「学びの共同体」の取り組みを推進し、確かな学力の定着を図る。
- (2) 基本的な生活習慣の確立
・笑顔でさわやかな挨拶、時間厳守、掃除指導の徹底を生徒指導の重点とする。
・不登校生徒のための手立てを充実させる。
- (3) 豊かな人間性の育成
・体育的・文化的行事をとおして、学級全員で取り組む感動を味わわせ、仲間意識の高揚や思いやりの心など「豊かな人間性」を育む。
・毎月「1日」を「いじめ・命を考える日」とし、人権・同和教育の視点に立って一人一人の思いや違いを認め合うようにする。また学期1回の生徒自らの手による人権朝会や人権の日の充実に努める。
- (4) 生徒会活動の活性化及び部活動の充実
・生徒会活動を活性化し、生徒の自主的な活動を支援し、活力ある生徒を育成する。
・学年プログラム委員会を活用し、生徒たちが自分たちの課題を見つけ、解決を図るような活動を1年生のときから指導し、生徒活動の活性化につなげる。
- (5) 小中連携
・小中連携を強化し、9年間を見通した教育の基盤づくりをする。
・小6の体験学習や部活動参観・体験、新入生合同説明会等において、中学校のよさを広報する。授業参観や中学教師による出前授業などを行い、9年間で生徒を育むように小中連携を充実させる。小中学校の教職員合同の研修会を開き、職員間の共通認識を図る。家庭科保育領域体験学習として、中学生が幼稚園・保育所に出かけて園児の世話をするなど、子ども同士の交流活動を推進する。
- (6) 市民性を育む取り組み
・総合的な学習における職場体験、福祉体験を通し、様々な人のふれあいを通して、対話能力を高める。
・PTA主催の資源物回収や環境美化活動に、生徒・職員・保護者が活動し、共に汗を流すことで互いに交流を深める。また、PTC懇談会を通して、生き方を考えさせる。
・地域での行事に生徒の出番をつくるように、公民館や各種団体との連携を推進する。

(2-1) 幼保小中連携の取り組み

- 小学校から中学校へのスムーズな進学・移行が行えるように本庄・西与賀小学校との連携をさらに進める。
 - ・学習指導や生徒指導面で指導の継続性や接続の円滑化を図るため、本庄・西与賀・城西3校の研究内容を含め、お互いの授業参観や合同研修会等で教職員が積極的に交流して授業づくりや仲間づくり・集団づくりの理念を共有する。
 - ・家庭とも連携し、義務教育9年間を見通した「望ましい生活の規律や学習の約束事、生活リズムの確立や『早寝・早起き・朝ご飯』等の生活習慣の定着・家庭学習の充実、望ましい人間関係づくり・集団づくり・仲間づくり」のための城西モデルをつくる。
- 総合的な学習の校外福祉体験活動や職場体験、家庭科保育領域体験学習を通して、中学生が幼稚園・保育所に出かけて園児の世話をするなど、子ども同士の交流活動を積極的に推進する。
また、校長をはじめ教職員が校区内の幼稚園・保育所の行事に参加して相互理解を深める。
- 児童・生徒間交流
 - ①ワークショップ・体験学習(夏季休業中) 中学教師による体験授業
 - ②新入生合同入学説明会
 - ・入学説明会
 - ・部活動参観及び体験
 - ③ようこそ先輩
 - ・中学生が母校を訪れ、中学校の授業や生活・部活動などについて紹介したり、6年生の質問に答えたり説明したりする。
 - ④視聴覚機器を使った中学校の紹介
 - ・「中学校紹介」のビデオ等を作り、中学校の様子を小学生に知らせる。小学5年生も中学校の様子を知ることができる。
 - ⑤特別支援学級の交流
 - ⑥行事における連携・・・西与賀ふれあい祭り、語りべの里本庄祭り、本庄・西与賀ふれあいコンサート、本庄・西与賀校区町民運動会、文化発表会、体育大会
 - ⑦フリー参観デーにおける小学6年保護者への授業参観の呼びかけ

(2-2) いじめ・命を考える取り組み

- 生徒朝会における生徒の主体的な取り組みを促す。(いじめ追放宣言など)
- ポスターや生徒による放送などを通し、いじめ・いのちに対する生徒の意識を高めていく。
- 学年等で道徳の授業について話し合い、心情を高める充実した授業を目指す。
- 各学期に1回、生徒による人権朝会を実施し、心に響く話などを通し自他を思いやる心情を育てる。
- 平和集会を実施し、戦争の悲惨さ、不条理を知り、平和を守ろうとする心情を育む。
- いじめ・命についてのアンケートを実施し、情報を収集するとともに実態把握に努める。
- 人権週間を年間に位置づけ、学年で統一して取り組むことにより人権意識を高めていく。

(2-3) 市民性をはぐくむ取り組み

- 総合学習における職場体験活動や福祉体験活動等を充実させることで、地域の人々との交流を深め、地域社会との関わり方を学ばせる。
- 地域ボランティアによる「全校読み語り」を継続させ、生徒の地域の人々から学ぶ機会を増やす。
- 地域の方をゲストに招いた授業を構築する。(各教科での体験的学習など)
- 社会参画のために、県や市のパブリックコメントに意見を出させることで、生徒の市民としての自覚を促していく。(社会科の公民分野)
- 生徒の地域行事(町民体育大会、祭り、各種催し物など)への積極的な参加を促す。
- PTA主催の資源物回収に生徒が積極的に参加・協力し、保護者や地域の方々と共に汗を流すことで、地域の一員としての意識を高める。

(3)指導の重点

各教科	<p><共通事項></p> <p>○「教師の意識が変われば授業が変わる、授業が変われば子どもが変わる」と言われるが、「生徒指導の三機能(自己存在感・共感的人間関係・自己決定)を生かした授業づくり」を目指す。</p> <p>○「教師は授業で勝負する」を合い言葉に常に「分かる授業」を提供し、一人一人の学びを保障するという意識を持ち、生徒一人一人の発言や考えを大切にすることで「自己存在感」を持たせ、どの教科でも「男女混合市松模様4人」を基本としたグループ活動を取り入れ、「聴き合い学び合う共感的人間関係」を育成する。</p> <p>○数学科・英語科では、TT授業や少人数授業で、各教科や単元の特性に応じた様々なグループ編成を行い、学力を向上させる指導法の工夫・改善に努める。</p> <p>○選択教科では生徒の能力・適性、興味・関心に応じた多様な学習活動を図るため、基礎的・基本的事項の確実な習得を目指した補充的学習と生徒一人一人の個性の表現を重視した課題追究・発展的学習を設定する。</p> <p>○教師同士が積極的に授業を公開し合い学び合うために十分な教材研究を行い、1時間1時間の学習のめあてが明確な授業をつくりあげ、指導過程や指導形態、指導技術の工夫・改善に努める。</p> <p>○家庭学習への意欲化・自学学習の習慣化を目指し、学級担任と教科担当が連携し、授業の始め・終わりに家庭学習への手立てを講じて生徒の学習意欲を高め、保護者の期待に応えられるよう「確かな学力の定着と向上」を目指す。</p> <p><国語></p> <p>○「確かな読みの力を育てる国語科授業の創造」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。①辞書やその他の資料を活用して、語彙を広げる活動②文法の学習や読む活動を通して語句の用法を理解し、文意を理解する活動③接続詞や対象のカテゴリーに着目して、文章の構成や展開をとらえる活動</p> <p><社会></p> <p>○「社会とのつながりを深める授業づくり」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。①体験的な学習…ロールプレイ、シミュレーション②価値判断の授業…討論、ディベート③市民社会への直接参加…パブリックコメント、新聞への投書</p> <p><数学></p> <p>○「基礎・基本の定着を図る指導法の研究」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。①自発的に学びを行う教材の工夫…子どもたちが興味を持てるような教材の提示②ジャンプ(思考の発展・飛躍)をねらった授業の実践…課題解決のための話し合いをより活発にするための工夫③学びあい活動…計算テストの繰り返しによる基礎・基本の定着</p> <p><理科></p> <p>○「科学的に探究する力を育てる指導法の研究」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。①学びあいのスキルを取り入れた授業…ブレインストーミング、キーワード、フリータイム、相互評価②生活体験と学習を結びつける授業③ジャンプ(思考の発展・飛躍)をねらった授業</p> <p><音楽></p> <p>○「感性や創造性を導き出す授業の工夫」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。①音楽への興味・関心を高める学習指導の工夫②集団で学ぶ意義を感じることができる座席配置の工夫③表現方法の工夫</p> <p><美術></p> <p>○「協同で行う活動を通して、創造的に表現する能力を高める指導法の研究」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。①日常生活と関わりのある題材の開発②表現する能力を高めるワークシートの工夫と活用③表現する能力を高める協同で行う創造活動の工夫</p> <p><保健体育></p> <p>○「仲間とともに向上を目指す学習指導の方法」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。①魔法の10分間における基礎体力の向上…種目に応じたトレーニング内容の工夫②グループ編成の工夫とグループ活動の活性化③個人カードの工夫…めあての設定、自己評価内容の工夫、形成的評価の分析</p> <p><技術・家庭科></p> <p>○「生きる力をはぐくむ技術・家庭科教育」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。</p> <p>○(技術分野)①基礎的な知識と技術の習得②生徒の学習意欲を高めるための題材の工夫③互いに高め合うグループ活動</p> <p>○(家庭分野)①「学びあいの」授業づくり②人とよりよいかかわる能力をいかした家庭や地域社会との連携</p> <p><英語></p> <p>○「確かな表現力を高める指導法の研究」を研究テーマにして、以下の活動に取り組む。①表現力を高めるためのinputの工夫②系統だった表現活動の実施③ペア活動、グループ活動の効果的な活用</p>
-----	--

道徳	<p>○道徳性の育成を中核にして生活の自立、学習の自立を図ることを目指して、「心の教育」を重要な課題として捉え、道徳教育を全教育活動を通して行い、社会生活を営む上での基本的なルールやマナーを徹底的に身に付けさせ、道徳的行動・行動が行えるようにする。</p> <p>○家庭や地域と連携して基本的生活習慣の育成に努めるとともに、「心のノート」を活用し、多様な人間関係体験や自然体験・社会体験を充実(福祉体験、職場体験等)し、挨拶運動やボランティア活動(アルミ缶回収と施設への車いす寄贈等)を通し、体を動かし汗をかくことで心を癒し、郷土への誇りと愛着や感謝する心を育て、規範意識や倫理観、社会常識の涵養に努め、生命の尊厳さや畏敬の念を培い、共生の生き方や社会のために役立つ生き方ができるようにする。</p> <p>○城西中読み語りボランティアなどPTAや地域と連携を図って「ふれあい道徳」を推進し、保護者や地域と一体になって生徒の道徳性、社会性の育成に努める。</p>
特別活動	<p>○学級は生徒の心身のより所であり、生徒の学習意欲を向上させるうえで学級集団の及ぼす力は大きい。「クラスにいると楽しい」「自分はクラスメートから認められている」という意識は、学習や行事に対する前向きな気持ちにつながるので、学級に互いを認め合う支持的風土を根付かせる学級経営・学級活動の充実に努める。</p> <p>○担任の思いを込めた学級経営案をつくり、全職員で共通理解する。</p> <p>○学年目標を持ち、3年間を見通して段階的に育てる。</p> <p>○「学校行事を通して絆を深め、生徒を育てる」を合い言葉に自然体験や体育的活動や文化的活動(体育大会、文化発表会、合唱コンクール等)を充実する。</p> <p>○生徒会活動を活性化し、生徒のアイデアや発想を大切に、出番を与え、生徒が自ら活動し、生徒のリーダーが前面に出て活動できるよう陰から教師がサポートし、自主性、責任感、ボランティアの心を育てる。</p>
総合的な学習の時間	<p>○地域や自然とのふれあいなどを通して、自ら課題を見つけ、主体的・創造的に探究する態度を育成することや生き方についての自覚の進化を図り、自己教育力を身につけさせ「生きる力」を育む。</p> <p>○育てたい資質・能力としては次の各項目に分けられる。(1) 問題解決能力として①課題を設定する能力②情報活用能力③問題解決能力④実践力・行動力⑤表現力、(2) 自己の生き方を考える資質・能力として① 主体的・創造的に取り組もうとする態度② 学び方・考え方・調べ方を身につけようとする態度③ 自己を振り返る態度である。</p> <p>各学年のテーマとして次のように設定していきたい。</p> <p>1年生 テーマ「共生」 共生の視点で地域を見つめ直そう</p> <p>2年生 テーマ「郷土」 ふるさと佐賀での体験学習</p> <p>3年生 テーマ「環境」 身の回りの環境を見つめ、よりよく改善する</p>
生徒指導	<p>○「学校は、生徒の夢を育む安心・安全な場所」を合い言葉に、「生徒を愛し続けてあきらめない、決して音を上げない、どの一人の生徒も見放さない」という共通認識で、教育相談の充実とカウンセリングマインドを大切に生徒指導体制の確立に努める。</p> <p>○生徒指導の3機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定)を活用し、基本的生活習慣・マナーの定着と規範意識の高揚に努める。</p> <p>○「授業での分かる喜びやふれあいで生徒を育てる」という意識で、授業による生徒指導の充実と学習不適応生徒をなくすための授業の工夫・改善、基礎・基本の定着のための学習支援・学習権の保障に努める。</p> <p>○「いじめ防止講話」「交通教室」「安全な自転車のマナーとルール」「薬物乱用防止講話」「不審者対応避難訓練」等を計画的に実施し、校内巡視を基本にした生徒の実態把握に努め、施設設備の安全点検、生徒会活動と連携した自転車点検活動を日常的に実施するとともに不審者侵入等の問題発生防止に努める。</p> <p>○情報モラルやマナーの指導を行い、学習・学校生活に不要な物の一つである携帯電話の所持をなぜ禁止するかについても、生徒に理解させる。</p> <p>○保護者や公民館、校区民生・児童委員協議会や青少年健全育成会、校区教育推進連絡会、関係機関との連携に努め、指導体制を充実し、健全育成を図る。</p> <p>○中1の不登校・不登校傾向生徒や相談室登校生徒の多くが、小学校時に潜在的であったものが顕在化したとも考えられるので、教育相談面の小・中連携を深め、情報交換を密に行う。</p> <p>○問題の早期発見をしたり、生徒一人一人のよりよい支援のためにも、教育相談主担当教員を中心にスクールカウンセラー(SC)やサポート相談員を講師として相談活動に対する教師の力量を高め、SCやサポート相談員・学習支援員と教育相談担当や養護教諭・学級担任等がチームで対応する教育相談体制を構築し、教職員と保護者が同一の視点から生徒理解に努める。</p> <p>○基礎基本の定着のための学習支援・学習権の保障に努め、本人の対人関係の苦手意識の克服と自己肯定感や自己有用感・自己存在感の獲得に努める。</p>

特別支援教育	<p>○毎月1回特別支援教育委員会・ケース会議を開いて、生徒一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育の体制づくり、支援方法の確立に努める。</p> <p>○「生徒に合わせ、教え方を変える」ために障がいの状況や生徒理解のための研修に励み、教師の生徒理解力の向上を図り、全職員の共通理解と連携のもとに、個別対応チームをつくり、障がいの状況に応じた適切で組織的な指導に努める。</p> <p>○知的障がいのある生徒を含め個別の指導を求めている生徒、集団生活に適応できずにいる生徒に、「実態把握シート」を活用しながら状況を把握し、短期目標と長期目標を持った個別の指導計画を立てて生徒への支援に努める。</p> <p>○家庭や地域との連携、特別支援学校との交流を推し進め、学校と関係諸機関との協力体制づくりなど、学校としての体制づくりに努める。</p>	
人権・同和教育	<p>○部落史学習を進めていく上で社会科担任と学級担任の連携など校内研修や授業研究を充実して人権・同和教育に対する教職員の資質の向上に努める。また、いじめや差別をしない、させない、許さない反差別の仲間づくり、学級・学校づくりに努める。</p> <p>○月1回の人権朝会と人権・同和教育の視点に立つ道徳・学級活動・総合的な学習の工夫に努め、家庭教育・社会教育との連携を図り、保護者への啓発活動を充実する。</p> <p>○毎月1回の人権・同和教育推進委員会を定着させて、人権・同和教育の推進体制をさらに強化して、年間指導計画を見直して生徒一人一人に人権に対する正しい見方、考え方、感じ方をきちんと身に付けさせ、主体的に差別をなくしていこうとする生徒を育成することを目指す。</p>	
キャリア教育	<p>○生徒が自分の能力や適性を理解しながら自らの生き方を考え、自己有用感を高めながら将来に対する目的意識を持って主体的に進路を選択決定する力を育てるために、第1学年より計画的、組織的、継続的な進路指導の充実を図る。</p> <p>○第2学年で、3日間の職場体験学習をする。ビジネスマナー講座等の事前学習、体験後の事後指導も含め、将来の職業や生活への見通しを与え、「夢に向かって努力する」「自分らしい生き方を実現する」態度を育てる。</p> <p>○生徒の個性や可能性・よさを見つめ、「自らの将来を設計する力」「情報活用力」「意思決定力」「人間関係調整力」等の育成を目指し、生徒の学習意欲を喚起するようガイダンス機能を活用した進路指導を展開する。</p>	
教育課題への対応	情報教育	<p>○ICT化に対応できる生徒を育成するために、教職員が情報リテラシーを身に付け、情報教育に関する自らの技能を向上させるために校内研修を実施して、授業の充実を図れるようにする。</p> <p>○コンピュータやインターネット・書籍・資料などを使い、情報の収集・判断・創造・発信等を行い、また生徒に役立つもの、分かりやすいものになるよう、その活用に努めるようにする。</p> <p>○技術科や理科・国語科を中心に各教科や総合的な学習の時間に、情報リテラシーを身に付けさせ、コンピュータを使った情報収集活用能力・表現能力の育成を図ったり、教科の学習に生かしたりすることができるように、情報教育を位置つけたカリキュラムを作成するとともに、情報モラルやマナーの指導を行う。</p>
	環境教育	<p>○学校は、生徒が学習活動を行う場として、学習に適した環境、健康に適した環境でなければならない。そのため、学校環境衛生検査と日常の環境衛生活動は不可欠なものであり、環境衛生活動は生徒に身近な環境問題に関心を持たせ、環境の維持改善のために実践しようとする意欲を高める。</p> <p>○学校版環境ISO認定校として、電気・水・紙の無駄をなくし、公共物や文房具を大切に使う取り組みをさらに推進する。</p> <p>○生徒会を中心に保護者や地域の支援・協力でアルミ缶を回収し、その益金で車いすを購入して特別養護老人ホームつぼみ荘へ寄贈する活動は、限りある資源の有効利用と環境美化の一助となっているが、この活動を続けていく。</p> <p>○校舎内外の清掃、整頓の徹底と環境美化、TPOを考えた掲示物の整備工夫に努める。</p> <p>○理科をはじめとした各教科等における環境教育を充実する。</p>

教育課題への対応	食と健康	<p>○食に関する指導の目標を「生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることを目指し、生徒一人一人が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通じて自らの健康管理ができるようにすること。また、楽しい食事や昼食指導を通じて、豊かな心を育成し社会性を涵養すること」とする。</p> <p>○「食」は生きる上での基本であるので、朝ご飯をきちんととることや家族そろっての楽しく団らんのある場で、バランスのとれた食事、食事のスピード・量・偏食・姿勢・マナー等を含め、担任と養護教諭との連携により食事の大切さや正しい食生活について指導する。</p> <p>○家庭科の実習で栄養の改善及び健康の増進を図る調理の工夫を学習する。</p> <p>○総合的な学習の時間を活用し「現代の食生活の危うさ」について調査したり、専門家を講師に招き「命につながる食」についての講話を聞くなどして「食」に関する知識と「食」を選択する力や自分の健康は自分で守るという自己管理能力や健全な食生活を実践する人間を育てる。</p>
	図書館教育	<p>○学校の教育活動の中核に図書館とその機能を据え、生徒の心を育てる読書指導のさらなる活性化や読書活動の推進を図る読書センターとしての機能、学校の教育課程の多様な展開に寄与する学習・情報センターとしての機能を充実させる。</p> <p>○図書やパソコン等を使った学習・情報センターと絵本や小説等の書籍による読書活動を進める読書センターを統合一元化したメディアセンター化に努め、各教科や総合的な学習の時間等の調べ学習で、書籍とwebページを使って情報収集ができるようにしたい。</p> <p>○城西中読み語りボランティアを積極的に活用して「全校読み語り」等を実施し、読書の楽しさを浸透させる。</p>
	部活動	<p>○部活動の活性化は生徒や保護者の願いでもあり、学校の活性化につながり、部活動指導に熱心に取り組み、生徒と共に汗を流すことで、生徒指導上も「好ましい人間関係づくり・信頼関係で結ばれた人間関係づくり」等、重要な役割を果たす。また、生徒自らの新たな才能や可能性の発見、身体的な爽快感と心の癒し、趣味や特技、強い精神力や最後までやり抜く粘り強さの育成にもつながるので、全職員が部活動を担当し、力を合わせて活性化に努める。</p> <p>○生徒の自主性、自治性を身につけさせるため、生徒が自ら自分たちの活動を振り返ることができるように定期的な部長会を開催する。</p>
	開かれた学校	<p>○「地域と共に歩む学校」をめざし、保護者や地域住民、公民館や地域の各種団体との交流促進を図ることで、地域の大人たちに囲まれ、地域から見守られるような学校づくりに努める。</p> <p>○学校の教育方針や様々な教育活動について、保護者や地域住民、学校評議員の意見をアンケートや学校評価等で十分に把握し、保護者や地域社会のニーズに応える教育課程の編成を行う。</p> <p>○学校便りや学年・学級便り、ホームページ等を通じて、学校行事や生徒の活動の様子を積極的に情報提供することで、保護者や地域の学校に対する関心を高める。</p>

4 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1)年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	13	19	22	13	0	20	20	20	16	16	21	16	196
2	17	19	22	13	0	20	20	20	16	16	21	16	200
3	17	19	22	13	0	20	20	20	16	16	21	7	191
備考													

(2)必修教科・道徳・特別活動・選択教科・総合的な学習の時間等の年間授業時数配当表

領域		学年	1	2	3
必修教科	国 語		121	102	97
	書 写		28	11	11
	社 会		112	113	88
	数 学		149	113	144
	理 科		112	150	144
	音 楽		49	39	37
	美 術		49	39	37
	保健体育		97	98	94
	技術・家庭		75	76	37
	外国語		112	113	108
道 徳			38	38	37
特別活動(学級活動)			40	42	37
選択教科			0	57	72
総合的な学習の時間			70	79	75
総時数			1052	1070	1018
生徒会活動			6	6	6
学校行事			37	40	46
その他			8	9	7
総 計			1103	1125	1077
備					
考					

様式3

週 時 間 割

曜日 時限	月	火	水	木	金
8:10 朝の時間 8:30	学級の時間 (朝読書・自習) 朝の会	①全校朝会 ②学年朝会 ③人権朝会 ④生徒朝会	学級の時間 (朝読書・自習) 朝の会	学級の時間 職員朝会8:20	学級の時間 (朝読書・自習) 朝の会
8:40 1 9:30	(1)	(7)	(13)	(18)	(24)
9:40 2 10:30	(2)	(8)	(14)	(19)	(25)
10:40 3 11:30	(3)	(9)	(15)	(20)	(26)
11:40 4 12:30	(4)	(10)	(16)	(21)	(27)
昼食・ 昼休み					
13:30 5 14:20	(5)	(11)	(17)	(22)	(28)
14:30 6 15:20	(6)	(12)	各種会議	(23)	(29)
15:20 清掃 帰りの会 15:55 下校					
備考			①生徒指導協議会 ②職員会議 ③校内研修会 ④学年部会	①1校時 研究推進委員会	

5 平成23年度学校行事

	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	金	春季休業始	日		水	いじめ(命)を 考える日	金	いじめ(命)を 考える日	月		木	いじめ(命)を 考える日,2学期始業式
2	土		月	いじめ(命)を 考える日	木		土		火	いじめ(命)を 考える日,全校登校日	金	
3	日		火	憲法記念日	金	教育実習終	日		水		土	
4	月		水	みどりの日	土		月		木		日	
5	火	春季休業終	木	こどもの日	日		火		金		月	
6	水	いじめ(命)を 考える日 1学期始業式	金		月		水		土		火	
7	木		土		火		木		日		水	振替休業日
8	金		日		水		金		月		木	
9	土		月		木		土		火		金	
10	日		火		金	第1回公開校 内研	日		水		土	
11	月		水	修学旅行(3)	土		月	町区生徒会	木		日	体育大会
12	火	第49回入学 式	木	修学旅行 (1,2,3)	日	佐賀市フリー 参観デー	火		金		月	振替休業日
13	水	発育測定	金	修学旅行(3)	月		水		土		火	
14	木		土		火	教育相談	木		日		水	
15	金		日		水	教育相談	金	1学期末PTA	月		木	教育実習始
16	土		月	教育実習始	木	教育相談	土		火		金	
17	日		火		金	教育相談	日		水		土	
18	月	県調査	水		土		月	海の日	木		日	
19	火	県調査 家庭訪問	木		日		火		金		月	敬老の日
20	水	家庭訪問	金		月	教育相談	水	1学期終業式	土		火	
21	木	家庭訪問	土		火	教育相談	木	夏季休業始 市中体連	日		水	
22	金	授業参観 PTA総会	日		水	期末テスト 避難訓練	金	市中体連	月		木	
23	土		月		木	期末テスト 薬物講話	土	市中体連	火	職場体験(2)	金	秋分の日
24	日		火		金	期末テスト 青春講演会	日	市中体連予 備	水	職場体験(2)	土	
25	月	家庭訪問	水		土		月		木	職場体験(2)	日	
26	火	家庭訪問	木		日		火		金	小6夏休み体 験入学	月	
27	水	家庭訪問	金		月	町区懇談会	水		土		火	
28	木	家庭訪問	土		火	町区懇談会	木		日		水	
29	金	昭和の日	日		水	町区懇談会	金	県中体連	月		木	
30	土		月	生徒総会	木		土	県中体連	火		金	教育実習終
31			火				日	県中体連予 備	水	夏季休業終		

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	(土)	火 いじめ(命)を 考える日	木 いじめ(命)を考 える日,三者面談	日 元日	水 いじめ(命)を 考える日	木 いじめ(命)を考 える日
2	(日)	水 文化発表会	金 三者面談	月	木	金
3	月 いじめ(命)を 考える日	(木) 文化の日	(土)	火	金	(土)
4	火	金	(日)	水	(土)	(日)
5	水	(土)	月 三者面談	木	(日)	月
6	木 中間テスト	(日)	火 三者面談	金	月	火 県立入試
7	金 中間テスト	月	水	土 冬季休業終	火	水 県立入試
8	(土)	火 新入生合同 説明会	木 三者面談	(日)	水	木
9	(日)	水 第2回フリー 参観デー	金 三者面談	(月) 成人の日	木	金 第49回卒業式
10	(月) 体育の日	木	(土)	火 いじめ(命)を考 える日,3学期始業式	金	(土)
11	火	金	(日)	水	(土) 建国記念の 日	(日)
12	水	(土)	月 三者面談	木	(日)	月
13	木	(日)	火 三者面談	金	月	火
14	金 第2回公開校 内研	月	水	(土)	火	水
15	(土)	火	木	(日)	水	木 学年末PTA
16	(日)	水	金	月	木	金
17	月	木	(土)	火	金	(土)
18	火 合唱コンク ール	金 生徒会長選 挙	(日)	水	(土)	(日)
19	水	(土)	月	木	(日)	月
20	木	(日)	火	金	月	(火) 春分の日
21	金 市中体連新 人	月	水	(土)	火	水
22	(土) 市中体連新 人	火 期末テスト 避難訓練	木 2学期終業式	(日)	水 学年末テスト	木
23	(日) 市中体連予備	(水) 勤労感謝の 日	(金) 天皇誕生日	月	木 学年末テスト	金 修了式
24	月	木 期末テスト	(土)	火	金 学年末テスト	(土)
25	火	金 期末テスト 進路説明会(3)	日 冬季休業始	水	(土)	日 学年末休業始
26	水	(土)	月	木	(日)	月
27	木	(日)	火	金 第3回公開校 内研	月	火
28	金	月	水	(土)	火	水
29	(土)	火	木	(日)	水	木
30	(日)	水	金	月		金
31	月		土	火		土 学年末休業終